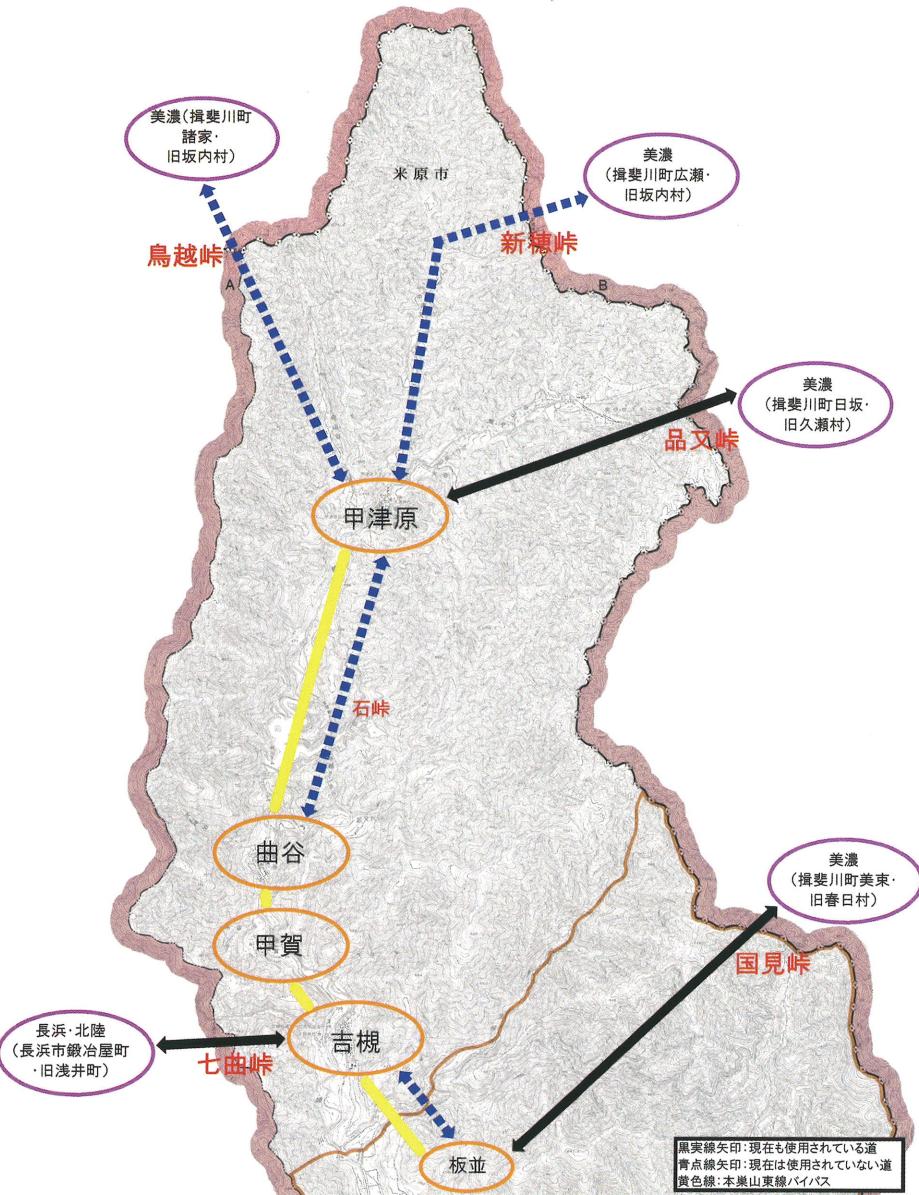


東草野を通過した人々 迎え入れた村びと



東草野は姉川の河谷に集落が点在し、その周囲は山に囲まれています。しかしながら、かつては山地を横断する峠道がいくつも存在しており、北端の甲津原からは鳥越峠・新穂峠・品又峠を越えて美濃へ、吉槻からは七曲峠を越えて浅井・長浜へと、人々の交流を支えていました。そのため多くの峠道を抱える東草野は、時として抜け道・避難路としても使用されました。**西仏坊** 平安時代末期に起きた源平争乱の際には、木曾義仲の家臣・西仏坊が東草野を通過したという伝承があります。西仏坊は、義仲の書記官として挙兵の中心的な役割を果たしますが義仲の敗死後の逃走中、曲谷を訪れる村人らに石工の技術を伝えたといいます。**羽柴（豊臣）秀吉の妻・北政所と母・大政所** 戦国時代には、本能寺の変のとき、羽柴（豊臣）秀吉の妻・北政所と母・大政所が明智光秀の手から逃れるため、長浜城から七曲峠・東草野を通過し美濃へと抜け、難を逃れています。**石田三成** 関ヶ原の合戦に敗けた石田三成が伊吹山中から東草野・七曲峠を越えて浅井方面へと逃走したといわれています。曲谷には三成が隠れたという「石田ヶ洞」と呼ばれる炭焼窯跡が残されています。**頭如・教如** 現代に伝えられた民俗文化の中には、甲津原の「頭教おどり」（県選択無形民俗文化財）があります。これは、織田信長との戦いに敗れた本願寺法主の頭如・教如父子が逃走の途中で甲津原に滞在し、その際住民らが慰めのために踊ったのが起源とされています。このように、東草野は近江と美濃を結ぶ交通の要衝であったと同時に、もしもの時には避難経路としても使われる重要な通路であり、その都度村びとたちはあたたかく出迎えて交流をしていたことがわかります。

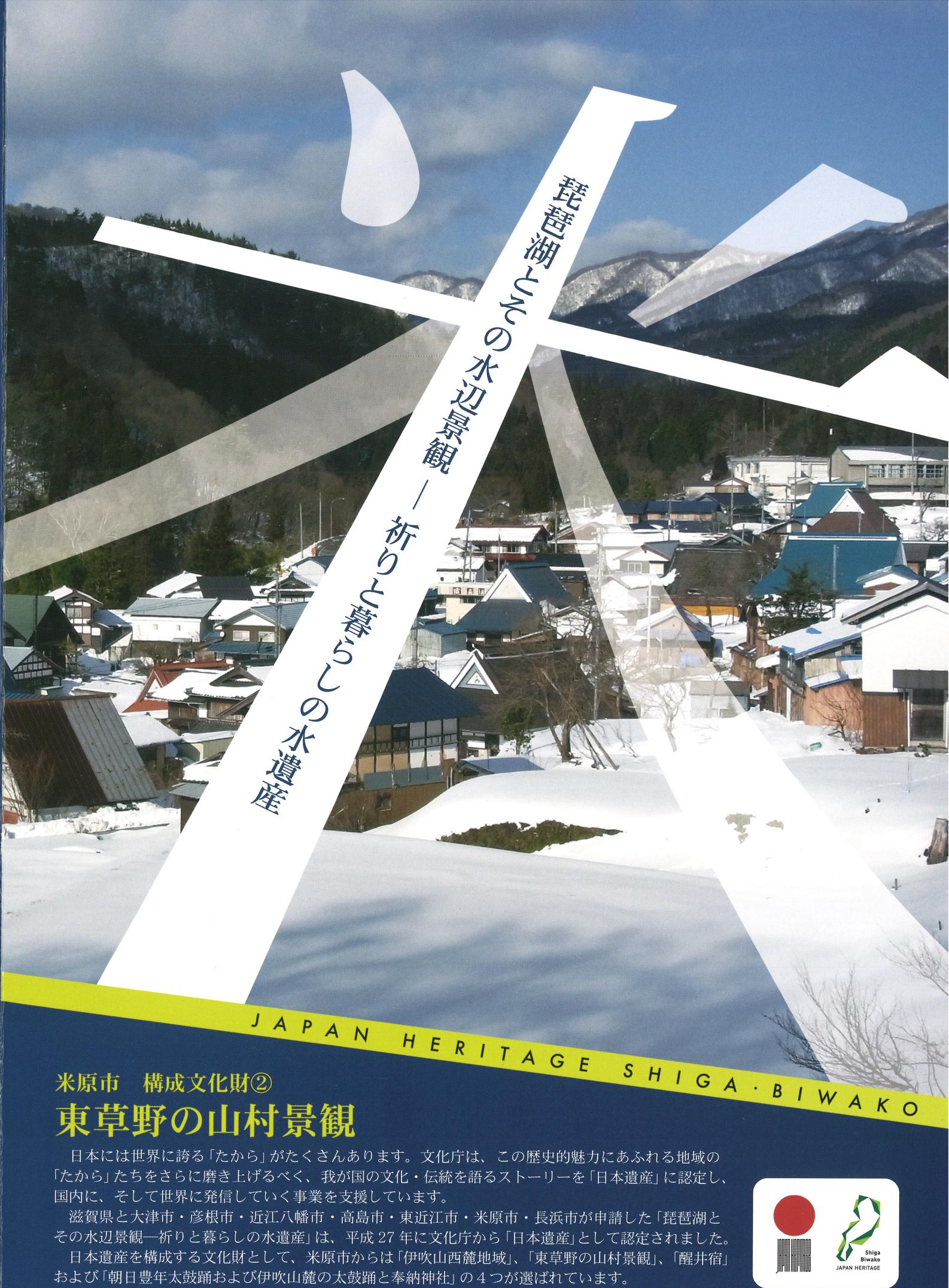
問合せ先：日本遺産米原地域協議会事務局

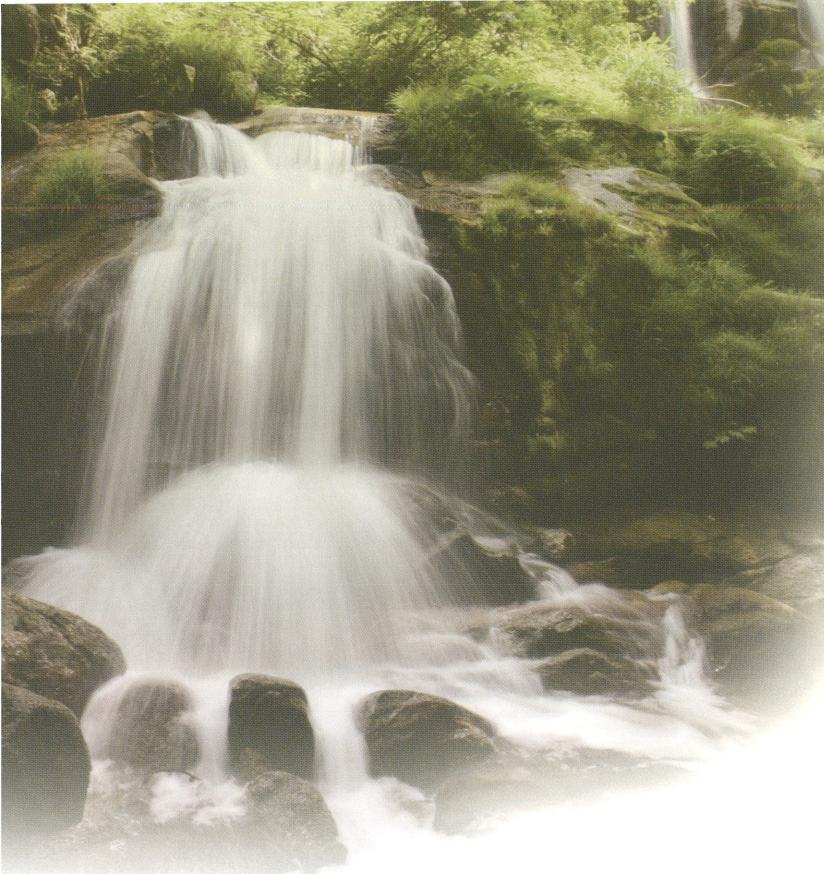
米原市経済環境部 商工観光課

TEL 0749-58-2227

米原市教育委員会事務局 歴史文化財保護課

TEL 0749-55-4552





琵琶湖の水辺を育む 源流「東草野」

東草野地区は、姉川上流の谷部に形成された山村です。周囲を伊吹山系の山々に囲まれた土地ながら、数多くの峠道が古くより拓かれ、峠道を介した岐阜県との交流が盛んでした。

またこの地区は西日本屈指の豪雪地帯であり、民家には広い軒下空間「カイダレ」を備え、集落内の水路は消雪に用いられるなど、豪雪に対応した工夫を見ることができます。

石工のムラ 曲谷

曲谷は縄文時代の「起し又遺跡」があり、太古から人々が生活していた集落です。曲谷の谷奥から良質な花崗岩が産出されることから江戸時代中ごろには一大生産地として石臼が盛んに造られました。集落内には、加工に失敗した石臼が階段・洗い場の台・畑の仕切りなどに再利用され、石臼の里ならではの景観がみられます。石臼の原材料となる石材を切り出した五色の滝石切場跡では、加工失敗品で作られた作業場「イシヤ」が設けられており、五色の滝とともに「米原のマチュピチュ」ともいうべき石の空間が広がっています。



民俗の宝庫 甲津原

姉川の最上流にあり、海拔約520mに位置する集落です。東草野でもとりわけ雪深い甲津原では、積雪時の出入口を確保するための広い軒下空間「カイダレ」を備えた民家が多くあります。この「カイダレ」は冬場の作業に用いられており、厳冬期に対応した生活を営んでいました。集落内には、「カワ」と呼ばれる水路が多くあり、人々は消雪に利用します。また、「カリ」を堰き止めて洗濯や食器などの洗い物をしたり、かつては麻布づくりの過程の中で麻を水に晒す時に利用するなど、雪・水へ向き合う生活を見ることができます。



四通八達の拠点 吉槻

吉槻の集落は姉川峡谷の中央部に位置します。古くから拓けたところで、東草野地域の中心的な役割を果たしてきました。吉槻の特色は近江と美濃を結ぶ交通の要衝という点です。吉槻から甲津原を越えて美濃へ行く北路、板並・国見峠を越えて春日村（岐阜県揖斐川町）へ至る南路、そして七曲峠から浅井・長浜へと通じており、交流が盛んに行われてきました。吉槻では各所に石仏・五輪塔などが多く見られます。これら石造物は、交流が盛んであったかつての吉槻を今に伝える遺産といえます。



多彩な生業 甲賀

甲賀の集落はS字状に流れる姉川の両岸に位置する段丘状の集落です。明治10年の調査では、人々は農業に従事する一方、養蚕・炭焼き・大工など多様な生業が営まれていました。特色ある生業としては近年まで行われた竹刀づくりが注目されます。竹刀の原料である竹は京都から仕入れ、完成した竹刀は名古屋に出荷していました。また、集落の裏山では炭焼きが行われており、かつては生産した炭を国友の鉄砲鍛冶へ納めていた伝承などがあり、生業から広域との交流が盛んでありました。

